町史編さんだより

第32回　～「じげの宝」シリーズvol.20～

『かっての日野郡内政治の中心地・黒坂』

地域の特徴や活動、行事、祭り、昔話、自慢などを紹介します。

黒坂のまちは、ＪＲ伯備線が地域を分けるように北から南に縦断しています。主に南寄り線路の東側に、まち部が形成され、黒坂駅が鉄道の玄関口となっています。付近には農協や小学校、縫製工場などがあります。

また、西側には、鏡山城址や日野高校黒坂施設、田畑などが連なっています。国道１８０号から黒坂中央橋を渡って地区内に入ると、左側に町公民館・役場黒坂支所、右側には老人福祉センター（町社会福祉協議会）があり、付近には郵便局もあります。

慶長３（１５９８）年までは、高里・古市・横手の三か村であったといい、慶長15（１６１０）年には、武将・大名の関一政（せきかずまさ）が黒坂に移封され鏡山城を築城、黒坂のまちづくりをしたと伝えられています。黒坂陣屋が設置されていた江戸時代から、裁判所や検察庁、警察署、小中学校、保育所などの公共施設が多く並んでいた近代まで、日野郡内の政治的中心地であったことがうかがえます。

▲今も続く藤森神社の宮相撲

そのほか、農林学校（旧日野産高）もあり、終戦前に入学した人は、教員として疎開してきた日本を代表する彫刻家の辻晋堂や作家の早川幾忠に習ったといいます。また、陸上競技場も設けられ、郡内の大会が開催。黒坂住民の陸上熱が盛り上がりました。

神社仏閣の多いまち

地区内には、神社が2社、寺も5カ寺あり、神社仏閣の多いまちでもあります。毎年、11月3日には、聖神社（上）と藤森神社（下）の秋祭りが同時に開かれ、神輿行列が行き交います。10年ほど前からは、黒坂駅前で両神社合同による御旅所の神事が行われるようになり、浦安の舞、剣舞なども披露。神輿行列には、参列者が減ったため、平成の初めごろ、女性も参加できるようになったといいます。また、藤森神社では前日11月2日の夜、子どもを中心に宮相撲が続けられています。

▲入場演技に登場した恐竜（平成５年）

自治会は、地域の南側から北側に向けて、1区から7区まで7自治会があり、周辺の自治会も含め、黒坂地区全体で地域づくりに取り組んでいます。

地区では、昔から運動会が盛んで、1軍から6軍に分かれ、総合リレーなどの競技を中心に、家族総出で熱戦が繰り広げられています。特に、入場演技が見もので、かつては全軍が数週間前から野外劇や仮装行列の案をつくって練習。運動会終了後には、慰労会が延々と続き、住民同士が親ぼくを深めてきました。

住民が力を合わせて地域づくり

1区から7区までの世帯・人口の合計を見ると、昭和35年の３７９世帯・１５０９人から、平成27年には１８９世帯・４５６人と、人口は3分の1以下に。この間、学校や公共施設、商店などの多くが姿を消し、運動会の入場演技を行う地区も減少、昔の面影がなくなったといいます。

こうした中、地域住民が中心となり、黒坂・菅福地区の全自治会に呼びかけ、黒坂地区コミュニティ推進協議会を発足（平成４年）。組織的に地域づくり活動を行うことで、自助、共助の精神が培われ防災活動にも生かされています。また、平成18年から住民ボランティアが、鏡山城址の石垣や周辺の整備を進め、平成19年には「鏡山城下を知ろう会」を発足。城下町であった黒坂の歴史を知ってもらおうと活動を続けています。

城下町の風情を残し、人情豊かな黒坂地区。将来に向け、「自然を生かした魅力あるまちにしたい」「黒坂のまちができてから約４００年。その歴史やロマンを発掘したい」「空き家が多いので、若い人に入ってほしい」「黒坂は、江戸時代、福田氏の政策（自分手政治）により、自分たちの手で自治を考え栄えてきた。この精神でがんばりたい」と、熱い思いが語られました。

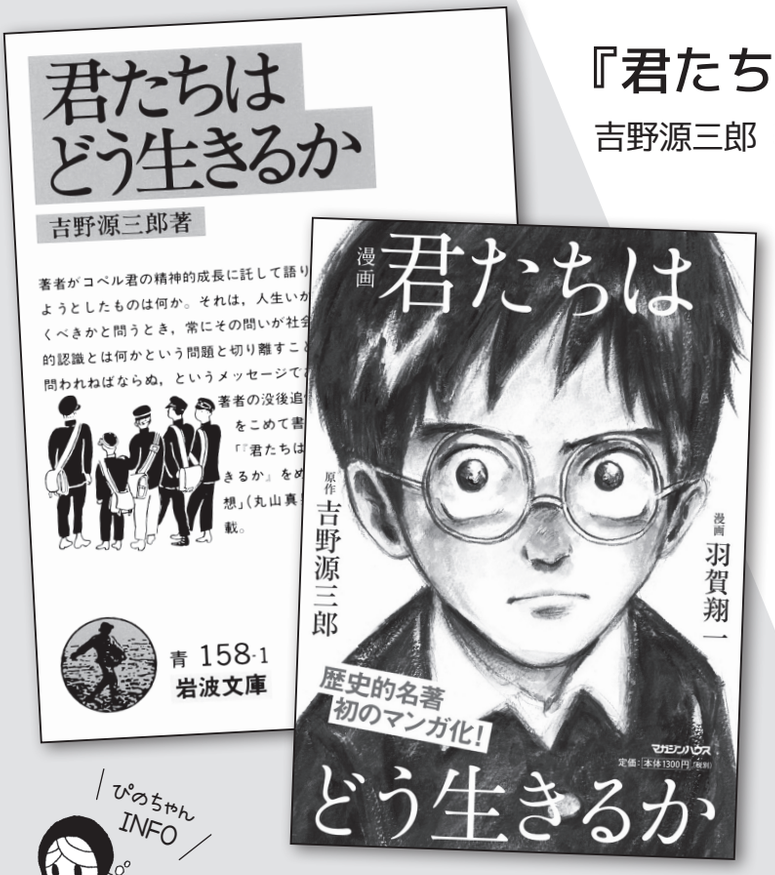
（松田暢子＝政治・行政・教育小委員会）

日野町史編さん室（TEL ７２－０３４１）

【日野町図書館 おすすめの１冊コーナー】

読んでみならんかな～

職員が勝手に
ススメる1冊♪
〝今読みたい本〟が
見つかるカモ!?



『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎 著 / 岩波文庫 /（初版発行：1937 年）

日本出版販売株式会社によると、2018 年度（2017.11.26 ～ 2018.11.24）ベストセラー本は、「漫画 君たちはどう生きるか』（吉野源三郎／原作　羽賀翔一／画　マガジンハウス／出版）でした。また、原作の新装版として同時発売された『君たちはどう生きるか』も 9 位にランクインしています。

皆さんご存知の通り、この本は元々、今から 80 年ほど前の 1937（昭和 12）年に出版され、当時 100 万部を超えるベストセラーとなった児童書です。私が教職を全うし、定年を迎えた一昨年から昨年にかけて、暇を持て余すあまり、久しぶりに気楽に本を読む気になりました。その時出会ったのがこの本です。

すでにさまざまなメディアなどでその存在が気になっていたこともあり、新装版の本を図書館で見つけ一気に読み終えました。この本のおもしろさは、題名の問いかけに対して、その答えが示されていないことにあります。また一方、昭和 12 年が太平洋戦争に突入する 4 年前だということに着目すれば、今なぜ、この本に注目が集まったのかということに思いを巡らしてみることも一興だと思います。

あの話題作が図書館でも読める!!

日野町図書館では、同作品の文庫本、漫画のどちらも貸し出しできます。貸し出し中でも予約ができますので、お気軽に声をかけて下さい。　問合せ / 町図書館（電話 72-1300）

この本を紹介してくれたのは…

日野町教育委員会

生田（いくた）　進（すすむ）　教育長

昨年の 6 月から教育長に就任しました。それまでは学校現場で、たまに学校図書館にある本を手に取って読むことはありましたが、じっくりと自分の好みに合った本を読むということはありませんでした。

今の時代、パソコンやタブレットで電子図書を読むこともできますが、やはり実際に本を手に取り、しおりを挿みながら 1 枚ずつページをめくって読むことが大切だと思います。一説によると、読書に親しむことは心豊かな想像力を育むことにつながるといいます。

近い将来、AI が人間に変わってさまざまな仕事をするといわれている中、人間が AI に勝るとしたら、それはまさにこの豊かな想像力を広げることではないでしょうか？これからも無理なく読書に親しめればと思っています。